



エマルジョン型増粘剤

センカアクトゲルシリーズ

センカアクトゲルシリーズは高分子エマルジョン型増粘剤です。

取り扱いが容易な自己増粘タイプの液体品であるため、各種水系製品の増粘に幅広く使用できます。

イオン性や使用するpHに応じた様々なグレードがあります。

使用 方 法

水にセンカアクトゲルを攪拌溶解し、その溶解液を増粘対象溶液に添加してください。

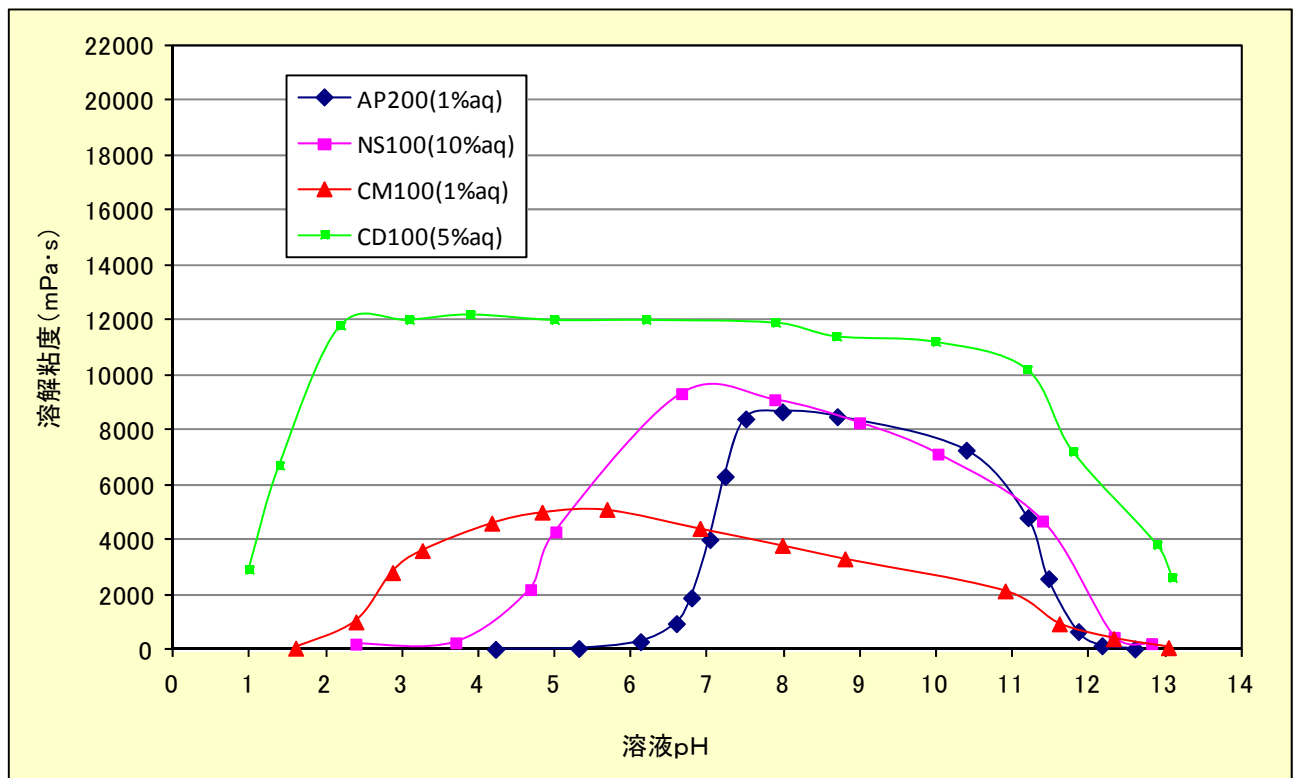
増粘対象溶液にセンカアクトゲルを直接添加し攪拌混合することで増粘させることも可能です。

特 徴

溶解液調整時

1. 短時間の攪拌で増粘効果が得られます。
2. 水に添加したときに澱粉やガム系のようにダマになりません。
3. 澱粉系よりも曳糸性(糸引くような粘性)が低く、高いチクソ性を示します。
4. センカアクトゲルAP200は中性～アルカリ領域で、CM100は酸性領域で、NS100は弱酸性～アルカリ領域での増粘に有効です。またセンカアクトゲルCD100は酸性～アルカリ領域の広い範囲で増粘効果を示します(図1)。

図1 増粘剤水溶液 pHと溶解粘度との関係



※粘度測定: B型回転粘度計、30rpm、25℃



使用例

①強酸性溶液の増粘

センカアクトゲルCM100は強酸性溶液を増粘することも可能です。

粘度調整の困難な強酸性溶液では、添加順序を変えることで安定性良好な溶液を調整することができます。(表1)

<増粘例>

表1 センカアクトゲルCM100による塩酸水溶液の増粘

		A	B	C
添加順序	1	希塩酸(8%)	水	水
	2		CM100	CM100
	3	CM100	濃塩酸(35%)	希塩酸(10%)
粘度(mPa・s)	5%添加	増粘せず	240	450
	8%添加	増粘せず	4600	4600
安定性(室温14日間)		—	良好	良好

②水系バインダーの増粘

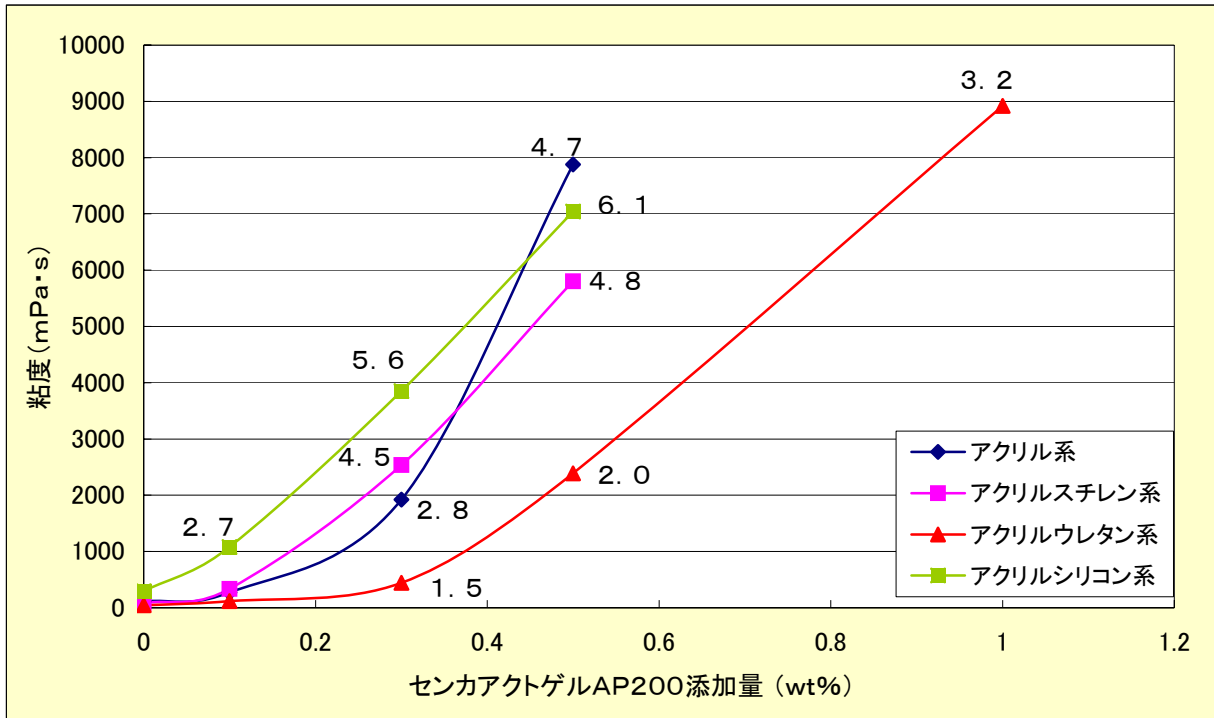
水系バインダーに直接添加し、増粘させることが可能です。(表2 図2、表3 図3)

<増粘例-1>

表2 各種アクリル系バインダー

樹脂種別	アクリル系	アクリルスチレン系	アクリルウレタン系	アクリルシリコン系
イオン性	アニオン	アニオン	アニオン	アニオン
製品粘度(mPa・s)	110	70	50	300
製品pH	7.7	7.6	8.6	8.5

図2 センカアクトゲルAP200添加による各種アクリル系バインダーの粘度変化



※グラフ中の数値はTI値(チクソトロピー指数)を示します。

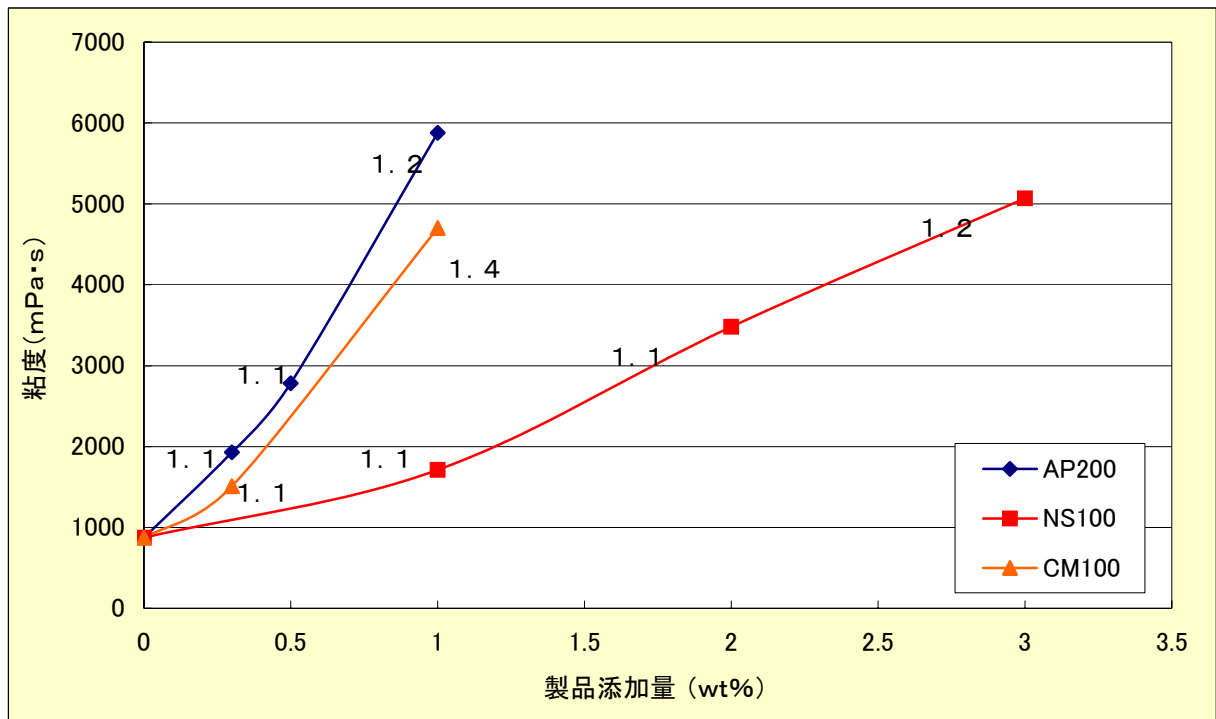
※粘度測定: B型回転粘度計、30rpm、25°C

<増粘例-2>

表3 酢酸ビニル系バインダー

樹脂種別	酢酸ビニル系
製品粘度(mPa・s)	870
製品pH	4.8

図3 センカアクトゲル添加による酢酸ビニル系バインダーの粘度変化



※グラフ中の数値はTI値(チクソトロピー指数)を示します。

※粘度測定: B型回転粘度計、30rpm、25°C



性質・性状

表4 センカアクトゲル一覧

製品名	イオン性	外 観	組 成	固形分 (%)	製品粘度 (mPa・s)	1%水溶液 pH	使用範囲 pH
センカアクトゲルAP200	アニオン	乳白色エマルション	アクリル酸金属塩ポリマー	35	600	7.5	7~10
センカアクトゲルNS100	ノニオン	乳白色エマルション	アクリルアミドポリマー	35	500	6.5	6~9
センカアクトゲルCM100	カチオン	乳白色エマルション	メタクリレート4級アンモニウム塩ポリマー	35	400	4.0	3~7
センカアクトゲルCD100 ¹⁾	カチオン	乳白色エマルション	第4級アンモニウム塩ポリマー	40	600	4.0	3~10

※上記の数値は代表値であり規格値ではありません。

※製品粘度(B型回転粘度計、30rpm、25°C)にて測定。

1) 開発品です。

お問い合わせ先

住所 大阪市鶴見区放出東1-17-34

TEL 06-6965-4813

FAX 06-6969-6219

担当 センカ株式会社 営業部門

センカ株式会社

<http://www.senkajpn.com>